

# 特別テーマ展関連講座

—押出遺跡の6次調査と山形県内の縄文前期後半の世界—

講義1

## 押出遺跡6次調査の成果

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター

水戸部 秀樹 氏

平成30年7月8日(日)

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

# 押出遺跡第6次発掘調査の成果



公益財団法人山形県埋蔵文化財センター  
水戸部秀樹

1

## 高畠町押出遺跡



- 縄文時代前期後半
- 約5800年前の集落遺跡
- 低湿地に位置しており、有機質遺物が多数出土
- 出土遺物は重要文化財に指定

2

## 押出遺跡の位置

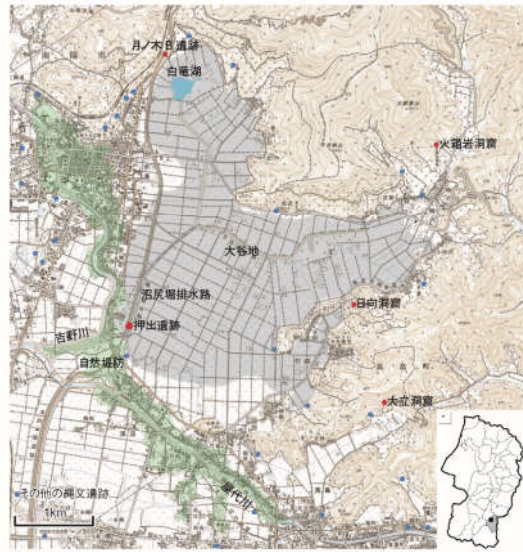


図2 周辺の遺跡と地形

大谷地は山地と自然堤防に囲まれている。大谷地の内部で見つかった遺跡は今のところ押出遺跡のみである。

3

## 大谷地と押出遺跡(南西から)



図1 調査区と大谷地を縦断する高速道路の盛土工事(南西から)

手前から奥の山地までが大谷地と呼ばれる低湿地である。この低湿地を改良して整備した水田の中に高速道路(右側)が建設される予定である。左側の水路が沼尻堀、中央下に第6次調査区がある。鋼矢板で囲い地下2.5メートルにある遺跡の調査を行った。

4

# 大谷地の1963年ころの様子



⑥ 試験施工完成のもので、雪がすっかりとけて、周囲一面タン水の中にくっきりと護岸だけが浮き出している。

5

# 大谷地の1959年ころの様子



図3 大谷地内の水田での田植え  
地盤が軟弱なため、腰まで泥に没する所もある。除草でも入ることがあり、大変な苦勞をして米を作ったようだ。



図4 谷地舟による堆肥運び  
移動や運搬には谷地舟と呼ばれる舟を使用する。このような水路が大谷地内に張り巡らされ、農道としての役割を果たしていた。

6

# 白竜湖

◇ 大谷地のかつての  
の景観を残して  
いる。



図5 白竜湖南岸（南西から）  
周囲には湿地性の植物が生い茂り、何らかの施設や護岸のためのものと見られる無数の杭が打ち込まれている。岸は植物遺体でできており、非常に軟弱で水を含んだスポンジのようである。

# 高低差の少ない地形

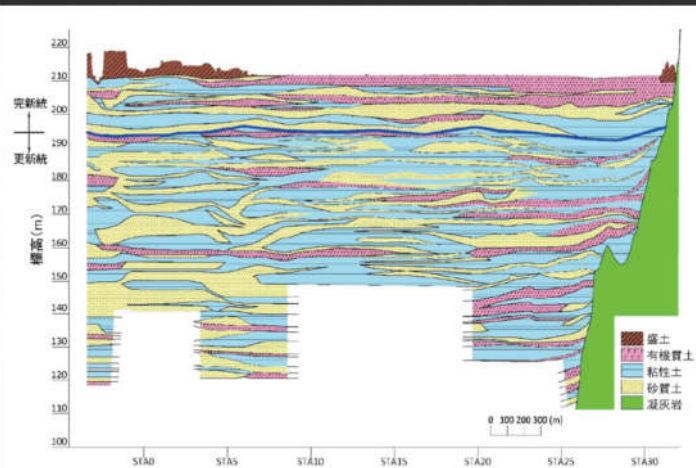


図6 大谷地の想定土層断面図（右端が大谷地北端）  
東日本高速道路株式会社が高速道路建設前に行ったボーリング調査による図である。大谷地の中央部を縦断する断面図であり、押出遺跡は「STA5」付近に位置する。大谷地全域にわたって土層がほぼ水平に堆積している様子が理解できる。

## 水害時の大谷地



図 64 平時と水害時の大谷地全景（北東から）  
 黒矢印が押出遺跡、白矢印が白竜湖の位置。平成 26 年 7 月の大雨により大谷地一帯が冠水した（右）。高低差が少ないため、一帯が水に覆われてしまった。前年に続き二年連続の水害であった。

## 大谷地の地層



図 7 押出遺跡の上に堆積している泥炭層  
 地上より約 2.5m の深さにある★を付した層に押出遺跡が含まれる。各層に含まれる試料を放射性炭素年代測定法で測ったところ、泥炭層の堆積速度にはばらつきがあると言える。

第1～3次調査区  
第4次調査区  
第5次調査区  
第6次調査区

炭化物集積地点1  
炭化物集積地点2

築石遺構  
埋納

盛土あるいは転ばし杭太がある住居跡  
木柱のみの住居跡

盛土遺構

11

これまでで最も南側の調査区

盛土遺構3基（うち2基が結合）

- 盛土遺構の分布範囲が南東に広がった。遺跡は南側に更に広がる事が確認された。

### 第6次調査で検出した盛土遺構

(盛土上面の遺物出土状況、北東から)

12

## 遺物の出土状況



図8 盛土縁辺での遺物出土状況（第6次調査）

遺物は盛土の上面、周囲、内部から出土したが、特に盛土の縁辺部に多かった。また、流路内からも大量のクルミとともに土器や石器が出土した。

13

## 盛土遺構検出状況



平地式住居の痕跡は無かった。水辺の作業場として構築したものでは？

14

## もう一つの盛土遺構を検出



- ◇ 二つの盛土遺構の間からも遺物が数多く出土した。後に埋め立てられ結合し、一つの盛土となった。

## 盛土遺構の結合



## 盛土結合部の断面

- ◇ 左の盛土の上に右の盛土が積まれる。
- ◇ その後、左右の盛土の間に土砂が積まれている。



## 盛土の完掘状況

- ◇ 多数の杭が打ち込まれている(盛土の土留めのため)
- ◇ 横たわった木は転ばし根太(地下にも埋もれていた)→盛土の沈下防止



## 杭(105本)



## 下層から早期末の遺物が出土

- ◇ 前期の層からさらに1.5m下の砂層から早期末(約6,000年前)の遺物が出土した
- ◇ 土器(縄文条痕文系)・石器・炭化物・クルミ殻などが出土





## これまで出土した浅鉢形彩漆土器

- ◇ ほかに破片数十点あり。
- ◇ ほかの遺跡を圧倒する量である。



図10 浅鉢形彩漆土器 (1の幅22.6cm)

全面に赤色漆が塗られ、①～③には黒色漆で文様が描かれている。  
大きさはさまざまだが、器形や口縁部の貫通孔は共通する。①～⑥  
は第1～3次調査出土で重要文化財、⑦は第5次調査で出土した。



## 漆塗膜の分析(断面)

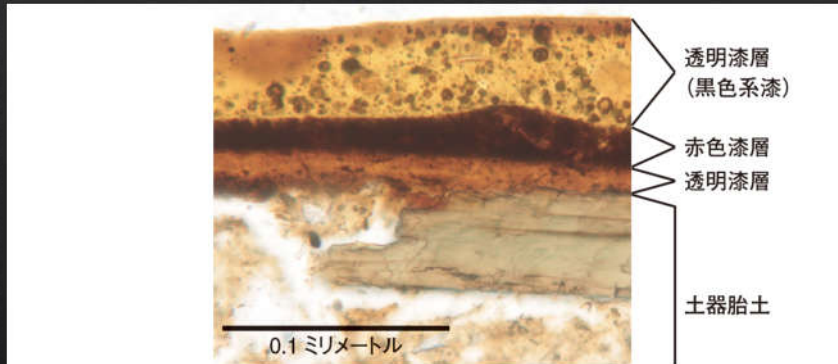


図 15 壺形彩漆土器の漆塗膜断面

土器の上に三層の漆層が塗られている。赤色漆層には顔料のパイプ状ベンガラが含まれるが、透明漆層に顔料はなく不純物が多く含まれている。黒色系漆に当たる透明漆層は非常に厚く光の透過率が下がり黒色に見える。

## 貝蓋裝飾付漆塗膜

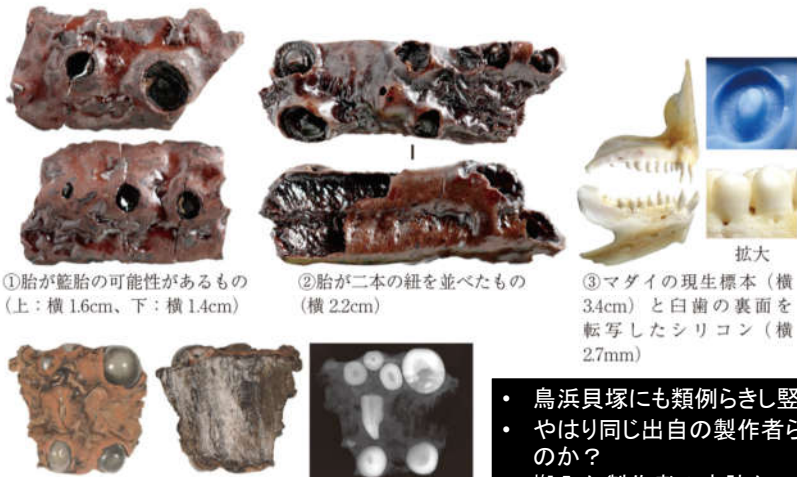
- ◇ 貝の蓋を貼り付けた漆製品
- ◇ 裏には木の痕跡
- ◇ 類例は青森県野辺地町向田(18)遺跡の赤漆塗木鉢のみ



図52 貝蓋裝飾付漆塗膜とスガイの蓋、および向田(18)遺跡出土の赤漆塗木鉢  
漆塗膜(①)に貼り付けられたのは、スガイの蓋(②)だと推測されている。元々は唯一の類例である赤漆塗木鉢(③・④)のような製品だったのかも知れない。(左:縦1.2cm)。

- ◇ ほかに例はなく、同じ出自の製作者らによるものか？ 搬入か製作者の来訪か？

## 鯛の歯の裝飾付漆塗製品



①胎が籃胎の可能性があるもの  
(上:横1.6cm、下:横1.4cm)

②胎が二本の紐を並べたもの  
(横2.2cm)

③マダイの現生標本(横3.4cm)と白歯の裏面を転写したシリコン(横2.7mm)

④小竹貝塚出土の類例、表表面とX線透過画像(縦1.1cm)

- 鳥浜貝塚にも類例らしき竖櫛がある。
- やはり同じ出自の製作者らによるものか？
- 搬入か製作者の来訪か？

図53 鯛の歯の裝飾付漆塗製品と小竹貝塚の類例、マダイの現生標本  
鯛の歯を漆塗製品に接着する裝飾技法である。鯛の白歯の上半部はきれいな玉状であることから、これを裝飾に用いたのだろう。



## 漆液容器

- ◇ 未精製漆液入りの容器
- ◇ 精製漆液入りの容器
- ◇ 赤色漆付着の容器
- ◇ ウルシの木も出土
- ◇ →押出遺跡内で漆製品の製作が可能
- ◇ 漆液容器は大木四式

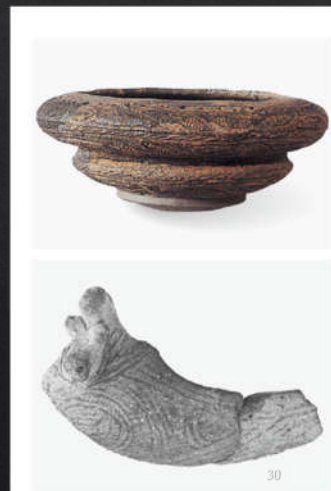


図 49 漆液容器

内面の漆の状態によって左が生漆用、中央が精製漆用と考えられる（高さ、左：110mm 右：14.0cm）。右は赤色漆を入れた容器の破片である（幅 6.5cm）。

## 彩漆土器、貝蓋装飾付漆塗膜、鯛の歯の装飾付漆塗製品の由来は・・・

- ◇ これら三種は押出集落の人々だけでは作れない
- ◇ 彩漆土器は関東地方からの製作者が来訪（諸磯b式の深鉢も）
- ◇ →彩漆土器の数が多いので
- ◇ →浅鉢形彩漆土器に傷みが見られない（長時間の移動を経ていない？）
- ◇ 貝蓋と鯛の歯は海岸部から製作者が来訪（同じ製作者か？）
- ◇ →胎が多様（求めに応じて製作、胎の提供）



諸磯b式土器

## 食用となった植物



①オニグルミ核 (縦 28.2 mm) ②クリ子葉 (縦 12.0 mm) ③キハダ種子 (縦 4.7 mm)  
 ④ヤマボウシ核 (縦 5.9 mm) ⑤ミズキ核 (縦 6.1 mm) ⑥ヤマブドウ種子 (縦 5.7 mm)  
 ⑦ニワトコ核 (縦 2.4 mm) ⑧ヒシ属果実 (縦 6.8 mm) ⑨ジュンサイ種子 (縦 3.7 mm)  
 ⑩コウホネ種子 (縦 4.6 mm) ⑪エゴマ果実 (縦 2.6 mm) ⑫ササゲ属アズキ亜属 (縦 3.6 mm)

図 59 食用と見られる植物

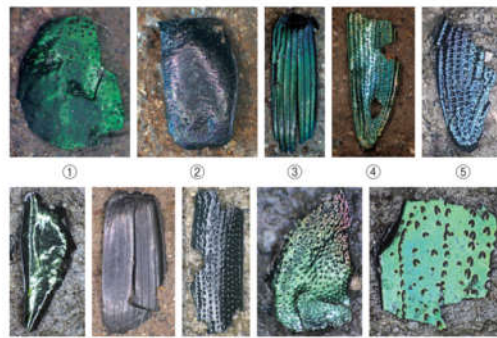
これらの花粉も検出されているが、花粉と違って風で運ばれるものではないため、人為的に集落内に持ち込んだものと考えられる。狩猟・漁労で得たものを加えると想像以上に豊かな食生活を送っていたようだ。

- ◇ クルミ殻は特に量が多い(遺跡中にあふれている)
- ◇ エゴマやアズキは栽培していた可能性がある
- ◇ ヤマブドウも量が多く、ブドウ酒を作ったのかも知れない(簡単に作れる)
- ◇ 遺跡の土をすべて洗って抽出した(半年がかり)

31

## 昆虫から周囲の環境を復元

- ◇ 花粉分析でも同様の結果
- ◇ 湿地・水辺・陸地・畑地・森林などの環境が存在していた



①カナブン近似種 (長さ 4.1 mm) ②クロオサムシ (長さ 4.5 mm)  
 ③キンナガゴミムシ (長さ 6.8 mm) ④コウホネネクイハムシ (長さ 5.2 mm)  
 ⑤キヌツヤミズクサハムシ (長さ 2.3 mm) ⑥コガネムシ (長さ 5.6 mm)  
 ⑦ヤマトトクリゴミムシ (長さ 6.2 mm) ⑧ナガカツオソウムシ (長さ 6.2 mm)  
 ⑨ヒメコガネ (長さ 3.5 mm) ⑩コアオハナムグリ (長さ 2.0 mm)

図 57 出土した昆虫

昆虫は出土地点付近の環境を知る手がかりとなる。①～③は森林、④・⑤・⑦は湿地、⑥は水辺、⑧はヨモギが生育する所、⑨・⑩は人が介在した植生が付近に存在したことを示している。